

慶應義塾志木高等学校

2027 学校案内

KEIO SHIKI SENIOR HIGH SCHOOL SCHOOL GUIDE

『慶應義塾の目的』 福澤諭吉


慶應義塾ハ単ニ一所ノ学塾トシテ自カラ甘んずるを得ず　其目的ハ　我日本国中ニ於ケル気品ノ泉源・智徳ノ模範たらんことを期し　之を実際にしては　居家・処世・立国の本旨を明にして　之を口に言ふのみにあらず　躬行実践　以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり
以上は曾て人に語りし所の一節なり
福澤諭吉

〔原文〕
慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず　其目的は　我日本国中に於ける気品の泉源・智徳の模範たらんことを期し　之を実際にしては　居家・処世・立国の本旨を明にして　之を口に言ふのみにあらず　躬行実践　以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり
以上は曾て人に語りし所の一節なり

慶應義塾は、どこにでもあるような学校の一つとなることで満足するところではありません。慶應義塾は、義塾で学ぶ塾生や塾員が、日本における「気品の泉源」・「智徳の模範」となることを目指す学塾です。それを具体的に言うならば、塾生・塾員が、家庭を安定させ、世の中で暮らしを立て、さらには国の独立を保つことの本来の意味を明確にしたうえで、それをただ口にするだけでなく、自ら行動に移すことで、「全社会の先導者」となってくれることを願っているのです。



校長 河野 文彦

慶應義塾志木高等学校は、森の中にあります。
『多様性ゆたかなキャンパス・専門性の高い授業・創造性あふれる生徒』を特徴として、慶應義塾大学を始めとする優れた教育機関へ優秀な人財や人格を送り出す、ユニークな学校です。
周りを都市部が囲み、ここだけ武蔵野の雑木林や野火用水址をとどめ、数多の生き物が苦楽を共にする自然生態系の中に私たちの校舎があります。他に類のない貴重なキャンパスです。
生活全てが自由と独立自尊の精神によって貫かれている本校の教育は、福澤諭吉先生ご自身の体験に基づく訓え、互いの立場にこだわることなく学び合い・教え合い・高め合うという『半学半教』を実践することにあります。
広大なキャンパスを寄付した松永安左ヱ門君の生き様そのものといえる決して権力に屈せず自分の信念を貫こうとする『不撓不屈』の精神は、開設以来 脈々と伝承されております。
『半学半教』と『不撓不屈』この師弟によるふたつの偉大なメッセージこそが、私たちの精神的基盤となっているのです。
一貫教育校である慶應志木で青春を過ごす人は皆、それぞれ異なっていることがいかに大切であるかを悟り、持てる力と時間を最大に活かして柔軟な考え方を養い、あらゆる可能性を試し、本当に自分の打ち込めることを見つけてそれを実行する、という貴重な経験をすることができるのです。
美しい自然の中で生涯の友と語らい、大らかな心を育てましょう。全世界に通用する大きな学問に取り組みましょう。慶應志木は、皆さんの将来と共にあることを喜びとしています。

Contents

慶應義塾の目的	02
志木高で学ぶということ	04
これから志木高生になる君たちへ	06
教育環境	08
教科紹介	09
施設案内	14
志木高の四季	16
学校生活	18
年間行事	20
クラブ活動	22
志木高の歩み	24
進路	26
アクセスマップ	27



志木高で学ぶということ

さまざまな分野で活躍する先輩からのメッセージ



岡田 英史君
32期（1986年卒）

人生の原点となる学校

志木高は、自由で、生徒を大人扱いして、背伸びすることを許してくれる学校という印象が強く残っています。このような環境の中、受験という画一的で分かりやすい目標がなくなったこともあり、自分がやりたいことは何か？自分に向いていることは何か？ということを自然と考えるようになりました。

志木高では、そのような生徒達の知的好奇心を刺激して学問へといざなう授業が数多く行われていました。例えば、古文では万葉仮名で万葉集を読む授業がありましたし、選択化学の授業で半年かけて行った定性分析の実験は、理工学部1年の化学実験よりも高度な内容を含むものでした。

私自身について振り返ると、当時は、勉強よりも端艇（ボート）部が中心の生活を送っていました。クラブ活動を通じて、人生の師とも言える部長先生、東京オリンピックに出場した方々を始めとする多くの先輩、そして後輩と出会えたことは、何事にも代え難い財産になっています。また、自分自身はたいした成績は残せませんでしたが、大学進学後にコーチとして後輩のインターハイ優勝に立ち会えたことは貴重な体験になりました。

私は義塾の理工学部電気情報工学科で、光や画像による生体計測、とくに赤外線を用いて脳の活動部位をイメージングする研究に携わっています。父親がエンジニアで、幼いころから機械図面に囲まれて育ったこともあり、漠然と将来は理工系に進むものと思ってはいましたが、志木高で様々な経験をしつつ自分の将来を考えた時間がなければ、研究者を志すという選択肢は出てこなかったに違いありません。

教育の本当の効果は20年後に現れると言われています。志木高で学んだことや経験したことは、年を経る毎にその重要性に改めて気づくことが多く、現在の自分の原点は志木高にあると言っても過言ではありません。私が志木高で学んだのは30年以上も前のことですが、志木高から理工学部に進学してきた学生諸君と接していると、志木高の良き精神が脈々と受け継がれていることを感じます。これから志木高に入学される皆さんも、自由な環境で青春を謳歌しつつ、有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。



天野 徳雄君
36期（1986年卒）

「自由」の意味を見つけ出そう！

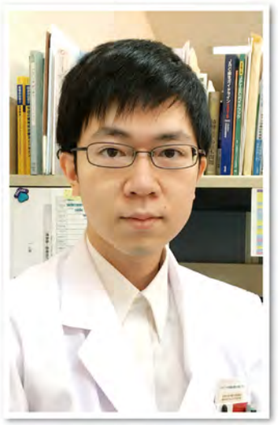
私は、昭和10年創業の日本蕎麦屋を営んでおります。高校を卒業して30年以上になりますが、ありがたいことに、志木高同期、先輩、後輩、更には慶應繋がりのお客様が毎日のようにご来店してくださいます。近年のSNS等の普及により、横の繋がり、縦の繋がりを以前よりも強く感じる日々が続いています。

私のような自営業のみならず、社会に出た時に、三田会と称される塾員（慶應大卒業生）の繋がりの大切さや有難さは数多くの塾員が感じていることと思います。特に、志木高の先輩、後輩と分かった時は殊の外です！ その三田会の一つである志木高卒業生同窓会「慶應志木会」は、1950年卒業の第1期の方から約15,000名の会員が「慶應志木会賞」「慶應志木会奨学基金」「国際交流支援金」等により、志木高生をバックアップしています。

志木高を一言で表現するなら「自由」な学校です。皆さんが志木高に入学した暁には、青春時代の3年間を自分で学習したい分野、やりたいスポーツ、極めたい趣味などにとことん時間を費やすことができる「自由」があるのです。ただ、それは、慶應義塾の塾生（生徒）として、自己責任において行動する上での「自由」でなければならないと学びました。

私が高校3年生の時、収穫祭（文化祭）のクラス催しとして、ディスコをやることに決めました。本物のミラーボールを回転させて本格的な雰囲気を出そうという結論になりましたが、さて、どこにあるのやら？ インターネットが普及していなかった当時ですが、クラス全員で調べ、探しました。ようやく貸出業者を見つけ出し、担任の先生に相談することに。先生は、我々の熱い想いを理解してくださり、事務室の許可を得て学校の車を自ら運転して、ミラーボールを一緒に取りに行ってくださったのでした。自分で考え行動する「自由」への理解と協力は、今でも鮮明に覚えています。

受験生の皆さん、慶應義塾志木高等学校に入学するためだけではなく、入学した後の7年間の学生生活でやりたい事をモチベーションとして、今を頑張ってください。



滝上 紘之君
52期（2002年卒）

好きなだけ、考えよう

「この学校で生活するコツは、大人として振る舞うことです。高等学校は子供の来る場所ではないのです。」

私が1999年4月に入学してまもなく開催された新入生歓迎会。そのパンフレットに掲載された、ある先生からの言葉です。その時は面食らったものでしたが、徐々に受け入れられるようになりました。

他の卒業生による文章でも触れられることと思いますが、志木高の特徴を一言で表すなら、それは「自由」です。もちろん、学校から与えられた勉学以外のことに打ち込める時間が多いという意味もありますが、（大学受験に向けたような）何か一つに決まった答えを求める類のものにはとどまらない授業の数々にも、自由という言葉は当てはまると思います。志木高においては、生徒のみならず教員にも自由があります。

そのような環境の中で最も大切なのは、「自分で考え、悩み、決めて行動する」ことでしょう。そしてそのことは、卒業後も、いつまでも大切です。

私は今、精神科医として臨床の場にいます。しかし臨床医としての自分を選択するまでの道のりは一筋縄とはいかず、脳科学研究の場を選んだこともあったり、そもそも臨床医の経験をしておくべきか悩んだこともあったりしました。あるときには挫折し、周囲に大きな迷惑をかけたこともあります。でも反省はありましたが、後悔はありません。全てが、私がその先について考え決めるにあたっての財産になりました。

精神医学には、「支配観念」という言葉があります。「強い感情に結びつき、思考のベースとなる観念」という意味ですが、多かれ少なかれ、この文章を読まれている皆様も、自らの考え方や行動を規定するような何かをお持ちのことと思います。初志貫徹という言葉の通り、その「何か」に従って進む道もありますが、そのような支配観念を突き崩すような現実に直面することもあります。そのとき必要になるのは、その現実を見て見ぬ振りをすることではなく、自分が依拠してきたものは何かを自覚し、その「何か」が、そこにおいてなお最優先されるべきものであり続けているかを、自問することでしょう。

志木高の自由は、まず私の支配観念に、風穴を開けてくれました。そして私が悩み考える自由を、与えてくれました。

回り道をしても良い、そのぶん長生きすれば良い。志木高にはきっと、「普通の人」はいません。志木高で学んだ暁には、面白くて変で、かつ自分でものを考える人となって卒業すると、私は確信するものです。

これから志木高生になる君たちへ

志木高で学ぶ。大学で学ぶ。

在校生からのメッセージ



岡本 憲眞君
3年A組

みなさんは、自分の感性と向き合ったことがありますか。
「感性」とは、物事を深く感じ取り、直感的に本質を捉える心の働きのことを言います。私たちの周りには、心を動かすものが沢山あります。映画、演劇、ドラマ、漫画……その中でも文学は、長い歴史の中で人間に寄り添い続け、想像力を与えてきた存在です。
「幅広い物語や思想に触れ、世界の解像度を上げる」
この役割を担うのが、本来の国語の授業だと、私は思います。
しかし、いわゆる受験の中では、こうした学びはなかなか得られません。プレッシャーの中で残り時間を気にかけ、解答用紙を埋めていく作業の中で、感性を磨くことはできるでしょうか。私は小さい頃から物語を読んだり、考えたりすることが好きで、小学校、中学校と、国語の授業を通じて、様々な世界に触れてきました。けれども、受験を前にした時、そこで得られる感動は少なくなり、点数を取るための、パズルゲームのような国語に疑問を感じていました。
「自分自身と向き合い、世界を広げる学びを得たい」
そんなことを思っていた時に出会ったのが、慶應義塾志木高校でした。
志木高の国語授業では、文学を中心とした様々な物語に触れながら、自分で考えたことを発表し、みんなで議論します。
こうして授業の中で、内面の豊かな仲間たちと謙虚な対話を重ね、自分の感性を磨いていくこの体験は、本校だけの魅力です。
「世界の見え方が変わった」私は志木高に入学してから、何度もそう感じる瞬間がありました。
皆さんも本校で、感性を磨き、まだ知らない自分に出会ってみませんか。



手塚 康惺君
3年B組

「教育とは、学校で学んだことをすべて忘れた後に自分の中に残るものである」物理学者アルベルト・アインシュタインのこの言葉は、志木高での日々を過ごすほどに確かな実感を伴い私の心に響いています。
入学後、まず圧倒されたのは数多くの理科のレポートでした。それは単に知識の再現ではありません。高度な実験や観察で得られたデータと誠実に向き合い、その結果から導かれることを徹底的に考察し、自身の言葉で論理的に記述するのです。納得のいくまで何度も推敲を重ねる過程は決して楽なものではありませんが、この試行錯誤の経験こそが知性の土台となり、生涯にわたる財産になると確信しています。
また、志木高にはさらに一歩踏み込んだ学びの場、有志によるゼミがあります。ここでは日頃の授業から離れ、各自が深めた学問の面白さを自由にぶつけ合います。ある日の数学のゼミでは、大学レベルの概念である多様体が扱われ、当たり前だと思っていた空間の概念が根底から覆される衝撃を受けました。互いの探究を尊重し、教員と生徒がそれぞれ対等に議論を交わすその時間は、学びの奥深さを体感でき、自己を研鑽できる大切な居場所となっています。
入学式で学校長が強調していた言葉－答えのない問いを追究する。志木高に入学することは、自らの意思で学問の深淵に踏み込む権利を手にすることです。大学受験という枠にとらわれず、知的好奇心や信念をどこまでも解き放つことができる。この「自律的に学問を追求できる自由」こそが、志木高での学びの本質なのです。



野原 悠惺君
3年D組

皆さんは高校3年間をどのように過ごしたいですか。好奇心をもって自分で一歩踏み出す勇気があれば、きっと高校生活を謳歌することができるでしょう。志木高には一歩踏み出すための素晴らしい環境が整っています。
私はサッカー部で主将を務め、日々練習に励む部活中心の生活を送っていますが、2年生の時に「全国高校生英語ストーリーテリングコンテスト」で1位を受賞することができました。このコンテストへの応募を勧めてくれた先生のおかげで、私は一歩踏み出すことができました。私はアメリカで生活した経験があるため英語は得意ですが、私一人の力でこの賞を得られたわけではありません。英語科の先生方がコンテストの前日まで毎日のように言葉選びやパフォーマンスの仕方、質疑応答の指導を熱心にしてくださったからです。このコンテストを通じて、私は英語以外にも多くを学び成長することができました。また、この成果が評価され、塾長賞をいただけたことも大きな喜びであり、次の一歩に繋がる自信になりました。
意外かもしれませんが、志木高は私が育ったアメリカの学校と似ているところがたくさんあります。自由であるところ、生徒を一人の人間として尊重してくれるところ、自分で考え、判断し、行動できるところ、やりたいこと、好きなことに没頭でき、それを評価してもらえるところです。
皆さんも一歩踏み出し、自分の可能性に挑戦してみませんか。この志木高には、挑戦する生徒を全力でサポートしてくれる先生方と、それを応援してくれ、互いに切磋琢磨しあえる仲間がいます。

大学生・大学院生からのメッセージ



宇津木 陽太君
71期　理工学研究科修士課程2年

私は現在、学部を卒業して大学院の理工学研究科・基礎理工学専攻に在籍しています。また、学部時代は体育会ソフトテニス部に所属しており、学業と両立しながら充実した大学生活を送ってきました。大学院の研究では、目には決して見えない原子を観測できる顕微鏡を用いて、今まで誰も観測したことのない触媒反応の鍵となる現象を追求しています。私がこの研究に興味を持ったきっかけは、志木高での専門性に優れた先生方との出会いでした。
高校入学時の私が好きだった科目は、理科や数学ではなく社会でした。なぜなら、私は「この世の中がどう成り立っているのか」に関心を持っていて、社会を学べばその疑問に答えられると思っていたからです。しかし志木高の先生方に出会って、どの科目も突き詰めれば「この世の中」を説明するものだと気づきました。特に化学に関しては、原子・分子から構成される世界を、授業・実験の両面から深く学べました。そこから私は化学に面白みを感じ、現在の研究を行っています。また、志木高の授業は他の高校とは一線を画しています。ある先生が「志木高の授業は講義に近い」「講義とは学生自ら学ぶものであり、その先に新たな学びが得られる」と言っていました。みなさんも、必ず主体的に学びたいと感じる授業が見つかります。
志木高には、理系文系という考え方の枠を超えて成長できる土壌が整っています。今回お話ししたのは志木高の魅力の一つに過ぎません。皆さんには、ぜひ志木高に入学してこの素晴らしい環境を体験してほしいと願っています。



三上 慶君
73期　経済学部4年

私は現在、慶應義塾大学経済学部に在籍しており、志木高ゴルフ部を経て、大学では体育会ゴルフ部に所属しています。競技ゴルフと学業の両立に励む日々を送っています。
志木高の最大の魅力は、豊かな自然と、そこに溶け込むように存在する多様な価値観です。校内には四季折々の花が咲き、動物が姿を見せ、稲が実る田んぼが広がっています。秋には校門前で柿を収穫し、自分たちで育てた竹で流しそうめんを楽しむなど、アスファルトの上では体験できない豊かな体験が日常にありました。その自然に向き合う時間の中でも、特に印象深かったのが俳句の授業です。前半は校内を散策しながら季節の移ろいを観察し、後半は句会を開いてそれぞれの句を共有します。夏休みにも自発的に集まって句会を開くほど夢中になりました。
また、志木高では優しくゆっくりと時間が流れます。多様な個性を持つ仲間たちが集まり、それぞれが否定されることなく受け入れられています。私自身も、ゴルフ部や俳句の授業を通して、自然の心地よさや、小さな幸せに気づく感性を育むことができました。
私も『学校案内』を読み、志木高への入学を決めました。そして今、心から「志木高に入学して良かった」と思っています。そして、いまこの文章を読んでくれている君へ。志木高は、日本で一番「ありのままの君」を伸ばしてくれる高校です。自由で、穏やかで、優しくて、誰もが誰かにならなくていい場所。ぜひ、君も飛び込んでみてください。かけがえのない3年間が待っています。



千葉 達博君
72期　医学部5年

私は医学部に所属しており、医学部体育会と両立しながら日々勉強に励んでいます。特に、医療におけるAIの活用に興味を持ったので、今は研究室でディープラーニングについて学んでいます。
志木高の最大の魅力は、自由な校風の下で生徒一人ひとりの個性が引き立つことです。クラブ活動に打ち込む、資格勉強に励む、趣味に没頭するなど、誰しもが自分の好きなことに取り組んでいます。私自身、3年間で生徒会活動やクラブ活動、アルバイトなど様々なことに取り組むことができ、そうして得られた計画性や企画力は大学で活かされています。
また、独特で専門的な授業も魅力の一つです。例えば、化学で実験ノートを作りながら毎週実験したり、自分で実験方法を組み立てて試験管の中身を推測したりしたことは思い出に残っています。その他にも、アイヌ語やトルコ語といった言語に触れたことや、古典について追究したことなど、普通の高校にはない経験ができました。志木高の3年間で知った学びの楽しさと広がった世界観は私の貴重な財産です。
皆さんには、独特な授業を受けてじっくりと自分の興味を見つけて欲しいです。そして、とことん好きなことに向き合える志木高の環境を生かして、個性豊かな友人たちと充実した3年間を過ごしてみませんか？

大学とのつながり

1 高大連携講座・授業公開

高大連携の試みとして、慶應義塾大学文学部の授業（オムニバス講座など）や理工学部の授業（数学）を聴講できる制度が設けられています。ここで単位を取得すると、一定の要件を満たしていれば、文学部・理工学部進学後にも大学の単位として認定されます。

2 クラブ活動

運動部・文化部問わず、本校のクラブ活動の多くは大学や慶應義塾内の一貫教育校と強く結びつきながら展開されています。例えば、大学からコーチを招いたり、早慶戦を共に戦ったり、塾内で対校戦が開催されたりします。大学でも活動を続ける卒業生も多く、そうした先輩たちから大学の情報を直接聞き、その雰囲気を肌で感じ取ることができます。

3 学部説明会・学部見学会・模擬講義

志木高から慶應義塾大学に進学する生徒に対しては、学部選択に必要なさまざまな情報を得る機会が用意されています。第3学年次には7月に全学部による学部説明会が開かれ、大学の先生方から直接学問研究の最先端のお話を伺うことができます。この他に医学部、理工学部、薬学部がそれぞれ見学会を設けています。
また、夏休みを中心に、一貫教育校の高校生を対象とした学部紹介や模擬授業などの動画を視聴できます。

4 慶應志木会・三田会

志木高で共に学ぶ仲間とは、卒業後、慶應義塾大学でも共に学ぶことになります。そのため、高校・大学を通じて苦楽を共にした卒業生の結束は固く、同期だけでなく、先輩・後輩とも日常的に一致協力する姿がしばしば見られます。それを支えているのが、本校独自の同窓会組織「慶應志木会」です。また、慶應義塾大学では各学部・研究会（ゼミナール）・体育会各部はもとより、居住地域や職場単位に至るまで、一般に「三田会」とよばれるさまざまなレベルの同窓会が組織されています。こうした縦横無尽のつながりが、実社会に出てからも新たな人脈と機会を生み出し続けます。

教育環境

教育課程

教育目的を実現するためには、教育課程（カリキュラム）が確かなものでなくてはなりません。

本校の教育目的

本校の教育目的は福澤諭吉の建学の精神に基づいた、慶應義塾大学に進学する前段階としての高等普通教育を行うことにあるが、そのために、本校教員は日頃次の四つの教育目標に向かって努力している。

1 塾生としての誇りを持たせること

独立自尊の気風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生となる教育を行う。

2 基礎的な学問の習得

将来、社会の各分野で立派に活動するため、また本塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を知らせるとともに、自主的に学習するように指導する。特に大学一般教育課程に応じた学習指導に留意し、学力の全体的向上をはかる。

3 個性と能力をのばす教育

現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。

4 健康を積極的に増進させること

ただ健康管理に留意するのみでなく、各人に適したスポーツに参加することによって積極的に健康を増進させる。

時間割

1時限	8：30〜9：20
2時限	9：30〜10：20
20分休み	10：20〜10：40
3時限	10：40〜11：30
4時限	11：40〜12：30
昼休み	12：30〜13：10（40分）
5時限	13：10〜14：00
6時限	14：10〜15：00
7・8時限	15：10〜17：00（※語学課外講座）

本校では4月1日〜3月31日までの1カ年を通して単一学期としていますが、学習指導等の便宜上、第1回定期試験までを1期、第2回定期試験までを2期、最終授業日までを3期とよぶならわしがあります。

教育課程表

（2022年度以後入学第1学年より適用）

教科	科目＼学年	1年 必修	2年 必修	3年 必修	3年 選択
国語	現代の国語	2			
	言語文化	2			
	文学国語		3	2	
	古典探究		2	2	
	ことばと文学（い）				2
	ことばと文学（ろ）				2
	ことばと文学（は）				2
	ことばと文学（に）				2
社会 地理歴史	地理総合	2			
	歴史総合	2			
	世界史探究		2		
	日本史探究			2	
	社会A				2
	社会B				2
社会 公民	公共		2		
	政治・経済			3	
	社会C				2
	社会D				2
数学	数学Ⅰ	3			
	数学Ⅱ		3		
	数学A	3			
	数学B		3		
	数学Ⅲ				4
	微積分基礎				2
	数学特論				2
理科	生物基礎	2			
	物理基礎	2			
	物理		} 2		
	地学基礎				
	化学基礎		} 2		
	生物				
	物理			} 2	
	地学				
	化学			} 2	
	生物				
	物理				2
	地学				2
	化学				2
	生物				2
保健体育	体育	3	3	3	
	保健	2			
芸術	音楽Ⅰ	} 2	} 2		
	美術Ⅰ				
	音楽Ⅱ			} 2	
	美術Ⅱ				
	芸術A				2
	芸術B				2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	4			
	英語コミュニケーションⅡ		3		
	英語コミュニケーションⅢ			3	
	実践英語Ⅰ	2			
	実践英語Ⅱ		2		
	実践英語Ⅲ			2	
	英語A				2
	英語B				2
	英語C				2
	※ドイツ語				2
	※フランス語				2
	※中国語				2
家庭	家庭基礎		2		
情報	情報Ⅰ	2			
	情報処理				2
総合的な探究の時間			2		
小計		33	33	23	10
				33	
ホーム・ルーム		1	1	1	
合計（時数）		34	34	34	

（注）
1. 各科目それぞれの算用数字は、単位数および週当たりの時間時数を示す。ただし、各学年の「ホーム・ルーム」は週当たりの授業時数を示す。
2. 第2、第3学年の必修理科は2年次「物理」「化学基礎」、3年次「物理」「化学」の組み合わせか、2年次「生物」「地学基礎」、3年次「生物」「地学」の組み合わせのいずれかを選択することを原則とする。
3. 芸術の科目は、学年順に、「音楽Ⅰ、美術Ⅰ、美術Ⅱ」あるいは、「美術Ⅰ、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ」を選択し履修しなければならない。
4. 第3学年の選択科目は、10単位を履修する。
5. 数学Ⅲと微積分基礎とは同時に選択できない。
6. 医学部に進学を希望する者は、第3学年の必修科目の物理、化学、および選択科目の数学Ⅲ、化学、生物を履修しなければならない。
7. 理工学部・薬学部に進学を希望する者は、第3学年の必修科目の物理、化学、および選択科目の数学Ⅲ、物理、化学を履修しなければならない。
8.「総合的な探究の時間」については、別に定める。
9. ※印のうち、各年度2科目を開講する。

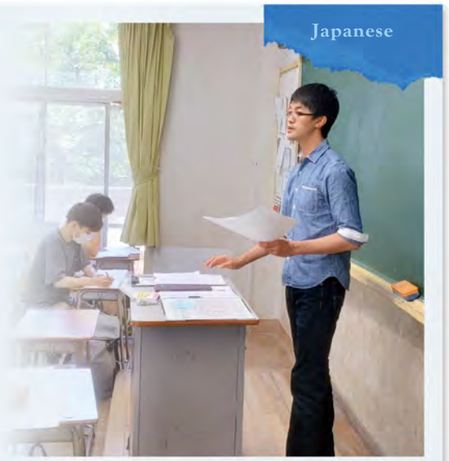
2027 KEIO SHIKI SENIOR HIGH SCHOOL

教科紹介



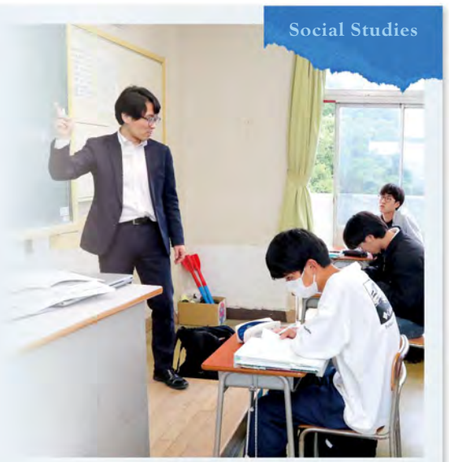
確かな知力と物事を深く考察する冷静な判断力を養うということが、志木高の目指す教育です。そういった意味で各教科は別々に存在するのではなく、この大きな目標を達成するための手段として、強く結びついています。志木高は慶應義塾の一貫教育校として、大学進学を見据え学問の真髄を追究する学びを目指します。そしてこの学びこそが、社会に出たときに真の力となってくれることを信じています。

国　語



第1学年の「言語文化」では和漢の古典を起点に現代の諸作品まで読解し、「現代の国語」では広い視野から近現代の諸問題に分け入る思考力を養います。第2学年では近世を中仕切りにして、それ以前を扱う「古典探究」は少人数で行い、以後を扱う「文学国語」は授業数を多くして、口頭発表、調査・取材、実演・実習、創作などを積極的に取り入れ、考察し表現する力を育みます。第3学年の「古典探究」と「文学国語」では、言語文化の中に息づく生きた論理をしっかりと把握し究明することで、学問の礎を築きます。自由選択科目「ことばと文学」では、多彩なテーマに沿って各生徒の探究心に応え、豊かな個性を伸ばします。3年間を通して、文学・芸道をはじめとする諸文化の奥深さについて学び、自ら考え判断する確かなことばの力を身につけることに、本カリキュラムの主眼があります。

社　会

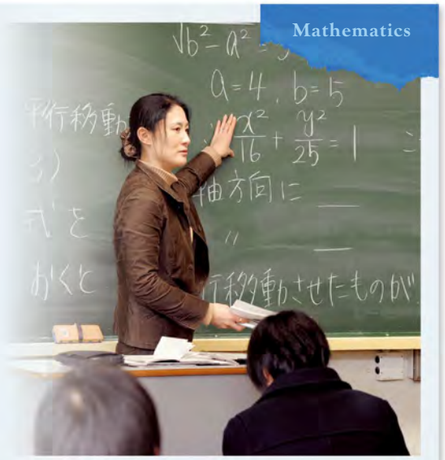


社会科（地理歴史・公民科）では、必修科目として第1学年次に「地理総合」「歴史総合」、第2学年次に「公共」「世界史探究」、第3学年次に「日本史探究」「政治・経済」を学び、あわせて第3学年次には、より専門性の高い「社会A」〜「社会D」も選択履修することができます。

授業内容は、いずれも生徒諸君の高い知的関心に応え、大学での学びや社会生活を強く意識したものとなっています。履修を通じて、歴史や法律、政治、経済などに関する基礎的な知識と教養が身につくと同時に、これらの諸分野への関心が深まり、自分の力で読み、調べ、考えることができるようになるはずです。

数　学

Mathematics



第1～2学年では、全員が高校数学の知識を身に付けられるように、2科目をそれぞれ週3時間とじっくり時間をかけて、基礎から教科書の内容を超えた応用に至るまでを学びます。また第3学年の自由選択科目は、大学進学も視野に入れながら多様な数学を学びます。そこでは、経済学等を学ぶための微積分、理工学部・医学部への進学希望者のためのより深い内容の微積分、さらに、年度によって統計学や線形代数学等の講座が用意されています。3年間の授業を通して、文化としての数学に関しても様々な話を聞けることでしょう。

理　科

Science



理科の方針を一言で表現するならば「実践主義」です。第2学年では、理科の全科目がそれぞれ課題を設定した研修旅行を諏訪～糸魚川・上越を舞台に行い、自然環境への観察力を養っています。あわせて、第2学年以降では自らの意思で選択した2科目について窮めていきます。物理・化学では各自の観察力と論理的理解が重視され、大学課程に匹敵する実験が行われます。生物・地学では校内の自然環境を十二分に活用した生物演習と専門性の高い地学演習。そして、その延長に気象予報士資格取得講座なども用意されています。理科の全科目を通じてレポートによる自己研鑽が重視されます。特に第2学年で行われる研修旅行で作成されるものは、たいへん大きな意義を持っています。

保健体育

Health & Physical



保健体育では、3年間の学習を通じて、生涯に渡って運動に関わり続けるために必要な知識や技能を身につけさせることを目指しています。

体育は、第1～2学年で「球技」や「水泳」、「長距離」などを行います。「球技」では、基本技術を中心にゲームが楽しめるまで学習し、基礎体力の育成も重視しています。「水泳」では、能力に応じて泳ぎ方の学習を進めています。「長距離」では、さまざまな距離を走ることで持久力の向上を図ります。第3学年では、主に「球技」を行い専門的な理論に基づく高度な技術の習得とゲームへの応用までを学習していきます。

保健は、第1学年で週2時間集中的に学習します。講義形式の授業以外に学習発表やレポートを通じて保健の理解を深める機会を設けています。

美　術

Fine Arts



志木高の美術の授業は充実しています。普通科高校では美術の授業が減少傾向にあるなかで、志木高では第1学年から第3学年まで必修選択で2単位ずつ授業が確保されています。また第3学年次には自由選択科目（芸術B）も履修でき、多感な高校時代に美術に触れる機会がしっかりと準備されています。授業ではデッサン・アクリル画・立体作品などを扱い、様々な資料や時には志木高の自然もモチーフとして、作品が独自の物となるように生徒それぞれが工夫できるように授業を進めていきます。自由な雰囲気のなかでの作品制作を通じて、自分の視点で物を見る感性を養い、自らの秘めた可能性に気づくのです。それとともに友人の良さにも気づき、お互いを認め合う雰囲気で日々の授業が行われています。

音　楽

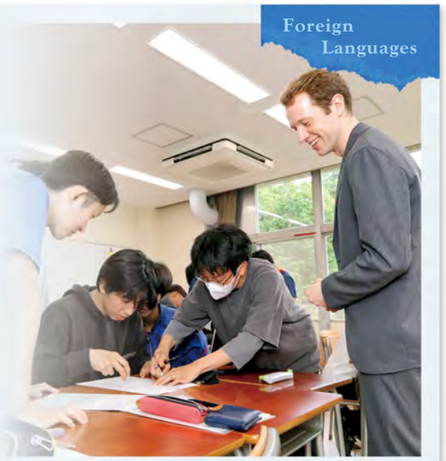
Music



音楽を愛好するための知性・感性を豊かに育成していくことを目標に授業を行っています。第1学年音楽選択者に対しては、独唱や合唱による「歌唱」を中心に、「器楽」、手拍子等を駆使した「リズム表現」など、主として実技を通じて自己の表現の手段を拡大していくことを目指して授業を行います。第2・3学年音楽選択者は、実践的な学習を通して音楽へのさらなる理解を深めていきます。第2学年では「歌唱」(合唱)の授業展開を柱に置き、またボディーパーカッションや楽典なども行います。第3学年では基礎的な和声法をもとに偉大なクラシック作品を楽譜をもとに分析し、楽曲がいかに作曲されるのかを明らかにしていきます。

外国語

Foreign Languages



志木高の外国語教育は、生涯にわたり自ら学び続けることができる自律的な学習者の育成を目標としています。基本的な知識の定着を図りつつ、実践的な言語活動の場面も多く設けています。具体的には、多読や多聴に加え、プレゼンテーションやエッセイライティングなどの様々な活動が授業内で行われています。各学年に用意された少人数授業では、英語でのコミュニケーションがより活発なものとなります。第3学年の自由選択科目では、映画・小説・時事英語などの幅広いテーマで異文化への理解も深めます。また、英語だけでなくドイツ語、フランス語、中国語のうち2講座が年度ごとに順に開講されています。個性豊かな選択講座には希望者が集い、濃密で深い学びの場となっています。

家　庭

高等学校の家庭科では、家庭を経営する主体としての立場から学習することとされています。本校では主として消費者教育・家族の法律・家事労働論などの社会科学系の内容に力を入れていますが、その他にも食物の分野では調理技術よりは家族の健康管理に関わる栄養学的なトピックを、被服製作では自分が着るためというよりも製作を通じて人に喜んでもらうことを目標にしています。単なる知識の習得にとどまらず、さまざまな作業を通じて勤勉さなどについても洞察できるよう配慮しています。



情　報

第1学年次に「情報Ⅰ」（必修科目）、第3学年次に「情報処理」（自由選択科目）を設置しています。「情報Ⅰ」では年間時数の約半分を実習に割り当て、コンピュータの操作方法、情報モラル、ワープロ・表計算ソフトウェアの使用方法、Web Page作成、コンピュータのしくみなど基礎的な事項を学習します。また「情報処理」では希望選択者を対象に「情報Ⅰ」の内容を発展させ発表（コンピュータを用いてプレゼンテーションを行う）、プログラミングなど一歩進んだコンピュータの使い方に関して学習をします。また休み時間にはコンピュータ教室を開放し、自主学習ができるようにしています。



総合的な探究の時間および語学課外講座

本校では、総合的な探究の時間を第2学年で実施しています。生徒は、言語、民族、文化、歴史などのテーマを扱った24の講座から2講座を選択して履修します。具体的には「沖縄語〈うちなーぐち〉やんどー」、「アイヌ文化に触れる」、「サンスクリット語の世界」、「古典ギリシャの言葉と思想」、「ハンムラビ法典を読む」といったユニークな講座で構成されています。

さらに、本校では、週1回7・8時限に20前後の語学課外講座を開催しています。身近な言語からなかなか触れる機会が少ない言語まで、大学でも受講できないような言語も多数そろっています。毎年優れた先生方をお招きし、希望する生徒に開放しています。3年間ひとつの講座を受講しつづける生徒、3年間別々の講座を受講する生徒等々、参加の仕方もそれぞれです。言語の習得を旨としておりますが、少人数ゆえに生じる個性豊かな担当の先生方との濃密なコミュニケーションも期待され、多感な年齢の生徒たちには、非常に大きな意義をもつものとなっています。



※総合的な探究の時間および語学課外講座で現在対応している言語
アイヌ語、アラビア語、イタリア語、インドネシア語、沖縄語、韓国語、古典ギリシャ語、古典ラテン語、サンスクリット語、スペイン語、スワヒリ語、タイ語、中国語、ドイツ語、トルコ語、ビルマ語、フィンランド語、フランス語、ベトナム語、ヘブライ語、ペルシア語、ポルトガル語、モンゴル語、ロシア語

自由選択科目

本校のカリキュラムの中でも最大の特色が、第3学年次に履修することになる「自由選択科目」です。第2学年次に行われるガイダンスと『講義要綱』を参考に、自分の興味・関心や希望する進路に応じて、10単位を選択することができます。例年20以上の講座が開講されており、講義や演習、実験、プログラミングや作品の制作、合唱に至るまで、非常にバラエティに富んだ授業が展開されています。授業内容は時に大学レベルにも及び、生徒たちはこれらの科目を履修し、思索を深めながら、人生の基礎となる広い知識と豊かな感性を育んでいきます。



［2026年度の開講例（一部）］

ことばと文化（ろ）：作者側の体験
ことばと文化（は）：SF／ファンタジー入門
社　会　A：日本美術史にみる神と仏
社　会　D：法学入門
── 社会のルールはどうなっているのか？
微積分基礎：文系学部志望者を対象とした
数学Ⅲ範囲の微積分
数学特論：線形代数学
情報処理：プログラミングとプレゼンテーション
物　理：熱力学・電磁気学・光波・原子物理
地　学：日本の四季の天気
── 天気予報のための読図と予想──
芸　術　B：立体作品を作る
英　語　B：Talk & Tell: Creative Storytelling in English
英　語　C：多読＆多聴 講座

研修旅行

研修旅行は学習を目的とした旅行で第1・2学年次に実施されます。

第1学年は2泊3日で三浦半島方面での研修を行います。横浜・鎌倉を中心とした自由度の高い班別自主研修と、小網代の森などでのクラス別行動を組み合わせ、複合的に当該地域の理解を深めます。

第2学年は3泊4日で諏訪から糸魚川・上越地域を訪ねて理科の総合的な研修を行います。具体的には、諏訪湖・木崎湖・青木湖の水質を調査して、湖沼生態系をテーマに環境汚染の問題を考察します。また、世界ジオパークに認定されている糸魚川地域の地質を調査しながら日本列島形成の歴史を考察したり、古い時代の岩石の生成年代を算出する仕組みなどについて理解を深めます。さらに、火力・原子力発電所の見学と、水力発電を行う黒部ダムでの実習を通じて日本のエネルギー問題についての理解を深め、議論しあいます。

第1・2学年ともに旅行が終了するとすぐにレポートの作成に取りかかります。自分で見たものを自分で考えてまとめるという修練は本校ではすべての教科に通じます。旅行の最中から要点を友達同士でまとめあっている姿を見かけます。こんな研修旅行のあり方も志木高の良き伝統になっているのです。









施設案内

個性的な授業や生徒の活動をサポートする様々な施設が用意されています。
それらを使い活動する中で、マナーを学び、社会性を自覚していきます。

管理棟



●校長室　●教員室
●事務室　●保健室
●会議室　●カウンセリングルーム

普通教室棟



●ホーム・ルーム教室（20教室）
●特別教室（4教室）
●ロッカー

理科系特別教室棟



●生物、物理、化学実験室
●階段教室（2教室）
●地学教室
●地震計室
●天体観測室

文科系特別教室棟

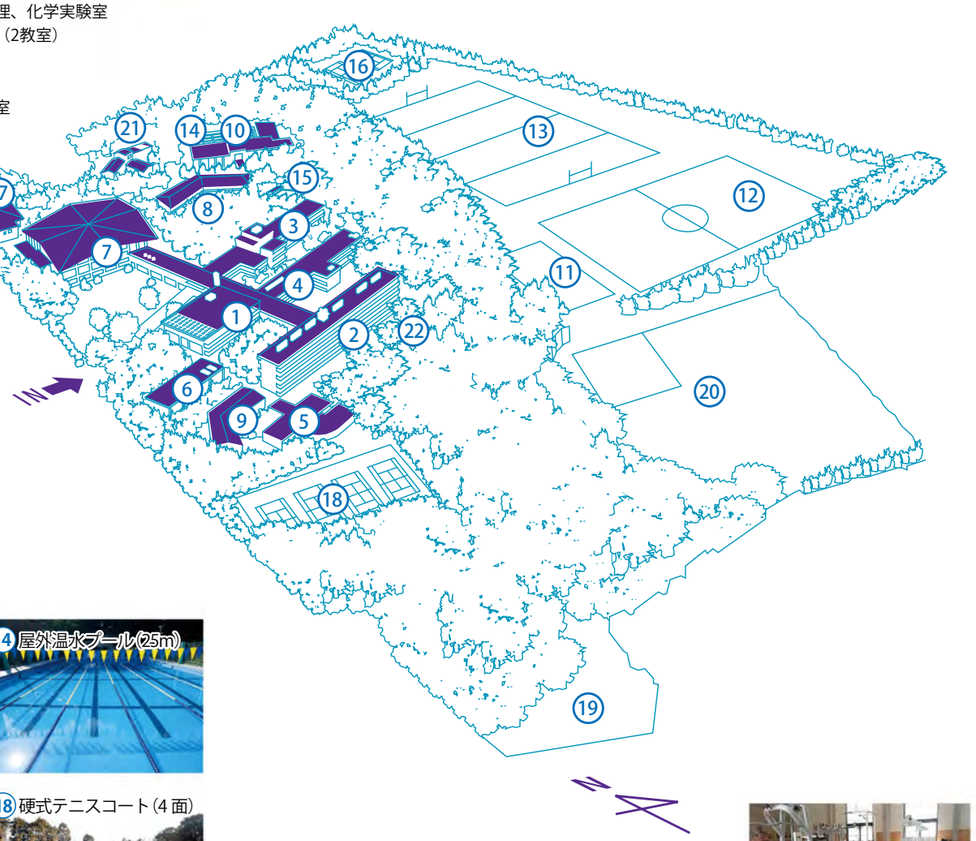


●社会科教室（2教室）
●外国語科教室（2教室）
●美術、製図教室

図書館



●図書室　●PC教室

























メディア棟



●コンピュータ教室
●視聴覚小教室（7教室）

体育館兼講堂



●バスケットコート兼
　バレーコート（2面）
●卓球場
●ステージ
●シャワールーム
●地階：食堂、売店

陽光舎



●部室
●多目的ルーム
●シャワールーム
●音楽練習室

光彩館

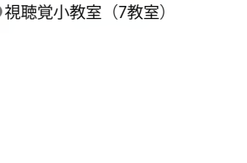


●多目的ホール　●音楽室（2教室）　●和室
●中教室（2教室）　●セミナールーム（2教室）

光彩館という名前は、福澤諭吉の「人間交際」という言葉に着想を得て、その「交際」の音にかけ、未来への明るい希望を込めた名称です。

去来舎

●トレーニングルーム　●和室　●音楽練習室
●宿泊室（約80人収容）　●大浴場



去来舎とは宿泊施設とトレーニングルームを備えた複合施設であり、クラブ活動や授業、生徒会、クラスなどでの様々な活動に使用されています。宿泊施設には多目的ルームや大浴場、エアコンが完備されており、生徒は1泊600円（別途食事代、寝具代）で宿泊できます。

トレーニングルームには最新の機器がトレーニングジムさながらに設置されています。

去来舎の名前は福澤先生の言葉「戯去戯来自有真」（戯れ去り戯れ来り自ずから真あり）に由来しています。これは、人生とは戯れだという心の余裕を持ちながら、その人生を真面目に、そして積極的に生きることの大切さを説いた言葉です。この言葉のもとに志木高生はさまざまな友人と集い、体を鍛え、寝食を共にし、いろいろなことを語り合い、それぞれの目標に向かって邁進しています。

志木高の四季

～自然と共に学ぶ～



今も武蔵野の疎林地帯の面影をとどめる校地には、かつては野火止用水が流れていました。江戸時代、川越城主松平伊豆守信綱が新田開発のために灌漑した用水です。現在ではその跡を留めるだけになってしまいましたが、約600種以上の植物を育む自然の豊かさは健在です。

春は最初に、森でコブシの花が咲きはじめ、やがてソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラと次々に桜が開花します。春の七草をはじめ、ムラサキケマン、タチツボスミレ、カントウタンポポなどの野の花が咲き、林ではフデリンドウ、ヒトリシズカ、カタクリなども秘かに咲きます。

夏に向っては帰化植物が勢いを増しますが、秋になると柿の実が色づき、落葉樹が校内を美しい紅葉で埋めつくします。

そんな情景の中を、シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、コジュケイなどが一年中訪れます。現在も20種を超える野鳥が観察できます。そして、防火用の人工池でカルガモがかわいい雛を孵すのは本校の初夏の風物詩となっています。

春『南方からやってくる蝶たち』

池には水を求めていろいろな動物がやってきます。先日、そんな中に見慣れないチョウを見つけました。ぱっと見たところはゴマダラチョウなのですが、後ろ羽に赤い斑点がはっきりと見えるので違う種類です。さっそく調べたところ、同じタテハチョウ科のアカボシゴマダラであることがわかりました。しかしこのチョウは国内では奄美諸島にしかいないチョウです。時を同じくして、校内のエノキにゴマダラチョウの幼虫や蛹がたくさんいると言うので見てみると、これもアカボシゴマダラの幼虫であるとわかりました。なんと南国のチョウが校内で繁殖していたのです。この他にも、最近校内ではたびたび見かけるツマグロヒョウモンも、本来は南方系のチョウです。

なんでも地球温暖化のせいにするわけにはいきませんが、身の回りの環境が我々の気づかぬうちに変化してきているのは確かなようです。

夏『初夏の吹雪』

6月の初旬から中旬、校内をフワフワと綿毛が飛びます。ピロティのそこここに綿毛が固まっています。天気の良い日の野球場やサッカー場には綿毛の吹雪が舞います。志木駅のプラットホームにまで飛んでいっています。膨大な量です。

これらは本校にあるわずか1本のポプラの樹が作り出した種子です。野球場のトイレのそばに立つポプラの樹が種子を飛ばすのは年中行事で、校舎内外で綿毛を目にするようになると、間もなく梅雨入りであることを感じます。本来、高緯度地域に生育する樹ですが、なぜか本校内でも体育館横に生えているプラタナスと双璧をなす巨木となっています。あれだけ膨大な種子を毎年飛ばしながら、校内でその実生を見かけない、ということは種子が不稔であると考えられます。ポプラの、樹としての寿命は何百年も続くものではないようですが、まだ当面は目にすることができるでしょう。

秋『「因幡の白兎」を癒したのは…』

「因幡の白兎」の昔話。この話を知るほとんどの人が、熟したガマの穂の綿毛がウサギの毛の代わりに身体につく様子を思い描いていないだろうか。しかし、昔話が語る植物の薬効は意外と現実的である。

実はガマは穂ではなく、その「花粉」に物語の筋書きに合う効能がある。昔からガマの花粉は「穂黄（ほおう）」と呼ばれ、収斂性止血薬としてそのまま傷口や火傷に散布薬として用いられていた。つまり、ガマの花粉は傷薬なのである。大国主命はガマの穂を使って「毛を元通りにする」のではなく、「傷ついた身体を癒す」ためにその使用を勧めた可能性がはるかに高い。



冬『冬の校内の森を散策しよう』

紅葉も終わり、すっかり葉を落とした森は寂しい、そんなイメージがありますが、私はけっこう冬の森が好きです。高木が葉を落とすおかげで、林床まで陽が差し込み明るい森になりますし、蚊の猛攻を受けうっそうと茂った暗い夏の森よりもずっと歩きやすく、いろいろな発見も多いのです。特に野火止用水跡沿いなども歩きやすくおすすめです。先日はハトの羽根が多数散らされたタカの摂餌跡なども見られましたし、タヌキにも遭遇しました。生物選択者は授業でも学びましたが、埼玉のこのあたりは本来の想定バイオームでは照葉樹林になる地域です。そうなると冬でも暗い常緑樹の森となりますが、かつて人の手が加わったためにクヌギ、コナラなどの落葉樹がまだまだ多いいわゆる雑木林となっているのです。

本来の照葉樹林が見られるのは、古い神社くらいなものでしょう。



『NEW 校内気象観測』

Campbell 社製の複合気象観測装置を設置しました。（既設の）百葉箱の横に立っている白い箱の胴体と白い頭、三本足、地中に埋め込まれた三本の尾っぽと、百葉箱に続く一本の尾っぽがそうです。観測項目は、気温、気圧、水蒸気圧、相対湿度、風向、風速、日射量、雨量、落雷回数、落雷距離を白い気象センサー部で、三本の地中に埋まる尾っぽはそれぞれ異なる深さの地中の温度を測定しています。

『実習農園を潤す井戸』

実習農園に井戸が完成しました。志木高は台地の上にあり地下水位が低いので、専門業者に掘削してもらい、農業用として大変いい水が出ました。これで、田畑、およびビオトープ池にも水道水を使わずに給水できるようになりましたので、ようやく校内での自給自足の農業、本来の自然農法ができる設備が整ったと言えます。地下水で水を供給し、校内の雑木林から腐葉土を作ることで田畑への肥料を賄う、再生農業の始まりです。

『四季（志木）の森』

過度にならないよう竹林と普通棟及び理科棟北側等の林に手を入れてみました。結果、今まで見られなかった草花や野鳥が散見されるようにもなりました。志木の春は、蕗の薹が芽を出し木々や草花が萌え、筍、枇杷に茗荷、そして秋には柿、銀杏に胡桃と素晴らしい食の移ろいを楽しむことが出来ます。…（中略）…ちょっと危険で魅惑的な森に遊び癒され、自然の恵みを享受できたことは良き思い出であり私の無形財産です。

『周辺開発とタヌキの出没』

もともと志木高にはタヌキが出没します。しかし、最近本校に近い「ハケの山」雑木林周辺で大規模マンションの建設がはじまったことでタヌキの出没傾向が変わりました。開発により生息環境を奪われた結果、深夜街中を走り回るタヌキの姿が目撃されるようになり、その一部が志木高内に入り込んで第二の住処としたのです。本校の他にはわずかな斜面林しか残らない周辺環境を考えるとここ以外に彼らの生息場所はなさそうです。

学校生活



受験を経て入学する友だち、塾内から進学する友だち、一人ひとりの重ねてきた経験は異なりますが、その違いを認め合うことから、志木高の生活が始まります。自由な校風の中で、それぞれが思い描いた学校生活を現実のものとしていってください。基本的なマナーを心得、他人に対する思いやりの気持ちさえあれば、君たちを束縛するものは何もありません。



校則・服装

校則は最小限のものしかありません。「独立自尊」を校是とする、塾生としての自覚を持つことを期待しているからです。公式行事などの服装としては学生服が定められていますが、普段は塾生としての品位を保った清潔な服装であれば自由です。

生徒会

生徒自身の自治組織です。目的は生徒会規約に「独立自尊の精神を基盤に、会員相互の協力と責任ある自治活動により、学園生活の充実、向上を図るものである」とあります。命令や強制によらない本校の教育の基本的組織です。



食堂・売店

同時に150人程度が利用できる食堂には、食べ盛りの生徒たちのお腹を満たすメニューが豊富に、また手頃な値段で用意されています。毎週金曜日に用意されるイベントメニューは特に人気で、午前中には完売します。食堂内にある売店ではパンなどの軽食をはじめ、筆記用具や白衣、ワイシャツに至るまで、学校生活に必要なものがほとんど手に入ります。

食堂に毎日通っていれば違うクラス、学年であっても志木高生の顔はだいたい覚えます。これが大学での人脈作りに大いに役立っているようです。規模が小さな志木高ならではの利点といえます。

国際交流

本校独自の国際交流提携校として、オーストラリアのクイーンズランド州にあるToowoomba Grammar School、台湾の台北市にある薇閣雙語高級中學（Taipei Wego Private Bilingual Senior High School）、フィンランドのトゥルク市にある Luostarivuoren Lyseon Lukio（ルオスタリヴオリ・ルシオン高校）の3校があり、夏季短期留学を実施しています。長期留学としては、生徒が外部団体（YFU・AFSなど）を通して留学を希望し、本校がそれを許可する場合もあります。







奨学金

学業・人物ともに優れ、経済的事情により学業の継続が困難な生徒に対して「小泉信三記念奨学金」「2000年記念教育基金奨学金」「慶應志木会奨学基金奨学金」が設けられています。このほかに、日本学生支援機構、地方公共団体・民間の奨学金を随時募集します。

名　称	対象者	募集期間	備　考
2000年記念教育基金奨学金（前期）	全学年	前年度1月	給付：奨学金額は、半期授業料全額を基準に必要度に応じて決定 高校3年生は大学進学に伴う入学金のみ
2000年記念教育基金奨学金（後期）	全学年	6月	給付：奨学金額は、半期授業料全額を基準に必要度に応じて決定
小泉信三記念奨学金	第2学年以上（塾内進学者は全学年）	4月	給付：奨学金額は、年間授業料の全額または半額に相当する額
慶應志木会奨学基金奨学金	全学年	9月	給付：奨学金額は、半期授業料に相当する額

健康管理・カウンセリング

保健室では慶應義塾大学病院の医師が校医として勤務しており、保健師と連携して救急の怪我や病気への対応、健康相談・保健管理などに取り組んでいます。また、大学の保健管理センターと連携して、毎年4月に健康診断を実施します。

一方、ストレスケアは現代社会の切実な問題ですが、本校では保健室に隣接する場所にカウンセリングルームを設けています。自分で問題を抱え込まず、相談し解決策を考えてゆくために、カウンセラーと精神神経科の専門医が、生徒・保護者の相談に応じています。

年間行事



勉強だけではなく、学校行事を通じて培われる実践力、
そして忍耐力が志木高生の強みです。
仲間と共にどこまでも熱く、一つ一つの行事を成功させていきます。

04	APRIL	●入学式・新入生歓迎会　●定期健康診断 ●開校記念日(4/23)
05	MAY	●第1学年研修旅行 ●早慶戦(東京六大学野球観戦)
06	JUNE	●第1回定期試験　●医学部見学会 ●クラスマッチ
07	JULY	●大学学部説明会 ●志木演説会
08	AUGUST	●志木の森ツアー
09	SEPTEMBER	●第2学年研修旅行　●第1学年普通救命講習 ●第3学年見学旅行　●薬学部見学会
10	OCTOBER	●運動会　●理工学部見学会 ●収穫祭
11	NOVEMBER	●第2回定期試験 ●クラスマッチ
12	DECEMBER	●志木演説会
01	JANUARY	●福澤先生誕生記念日(1/10) ●第3学年第3回定期試験
02	FEBRUARY	●第1・2学年第3回定期試験
03	MARCH	●卒業式 ●志木の森ツアー



クラスマッチ

6月と11月の定期試験期間後に行われる親睦行事です。サッカー、ソフトボール、バスケットボール、卓球などでクラス別のチーム対抗戦を行います。

研修・見学旅行

第1学年は5月中旬に三浦半島で2泊3日の研修旅行を行い、第2学年は9月下旬に信越方面で理科の実習を中心とした3泊4日の研修旅行を行います（p.013 参照）。第3学年は9月下旬に東北方面で3泊4日の見学旅行を行います。

早慶戦

東京六大学野球リーグ戦の中でも長い伝統に輝く一戦です。毎年春と秋に神宮球場で行なわれ、全塾を挙げて応援します。本校では、例年春の第1回戦に第1学年全員が参加します。応援合戦などを通じて、塾生としてのきずなを感じる絶好の機会です。



志木演説会

福澤先生の始められた「三田演説会」にならい、生徒全員参加の学校行事として行われる講演会です。1957年5月に第1回が開催され、卒業生をはじめ慶應義塾の内外から各界で活躍する方々を講師としてお招きしています。また講演だけでなく、生徒の合唱、発表、演説の場でもあります。現在は7月、12月の二回行われています。義塾の演説の伝統を受け継ぐ学校行事です。



運動会

春または秋に行われる体育行事です。トラック競技や綱引き、台風の目などのフィールド競技、アトラクションのクラス対抗仮装行列など、意匠を凝らしたクラス旗のはためく青空のもとで繰り広げられます。締めくくりの騎馬戦は、これぞ男子校という迫力で圧倒されます。

志木の森

本校OBによって慶應義塾に寄贈された三重県多気郡大台町・度会郡大紀町にある森です。春・夏の年2回、有志による「志木の森ツアー」を行っています。森林の維持活動、植生・地質の調査のほか、カヌー、熊野古道散策、バーベキュー、キャンプファイヤーなど、企画盛りだくさんのツアーです。

普通救命講習

毎年度第1学年を対象に行われます。専門の講師の方々を招いて、心臓マッサージ法や人工呼吸法などの実践的な救命実技指導を受けながら、「いのち」の大切さを学びます。

教室から出る
—フィールドワークへの誘い—

志木高の広い敷地と武蔵野の自然の中では学校全体が教室のようなものです。動植物の生態を観察する、地形を測定する、俳句を詠む、稲を育てる、鉛筆でデッサンをするなど、教室内に留まらない校内の環境を活かした授業が日常的に行われます。さらに校外に出て、さまざまな施設への訪問、博物館や美術館の見学、歌舞伎や演劇の鑑賞、総合的な探究の時間の授業では各国の文化に触れるためにレストランを訪れるなどといった広がりのある授業が展開され、標本やインターネットを見ただけでは伝わらないリアリティーを生徒たちは普段の授業の中から体感しています。生徒の活動も器楽部が福祉施設でボランティア演奏会を行うなど広がりを見せています。



収穫祭

10月下旬（または11月上旬）に開催される学園祭です。「収穫祭」の名は、本校の前身である獣医畜産専門学校・農業高校の伝統を受け継いでいます。生徒によって収穫祭実行委員会が組織され、企画から運営に至るすべてに携わります。クラス・クラブや有志による企画・模擬店や研究発表、招待試合、前・中夜祭などが行われた後、最後を飾るのは後夜祭。2日間は瞬く間に過ぎ去りますが、そこで生まれた絆は一生モノです。

昨年度の第78回収穫祭では「キッチンカーの誘致」や「麻雀プロの白鳥翔選手によるトークイベント」といった新たな企画に挑戦しました。そして、これらの企画実施の過程において、私は志木高生の底力を実感しました。というのも、前述の企画はどれも一筋縄ではいかないものだったからです。キッチンカーの誘致は前例がなく、事務室や保健室の職員の方々からも当初は実現困難と言われた企画でしたし、白鳥選手のトークイベントについても麻雀がもつ賭け事というイメージをどう払拭するかを実行委員生徒と教職員との間で何度も協議を重ねました。加えて、最も大きな課題は「後夜祭」でした。開催直前に体育館の空調故障が判明し、来場者数を大幅に制限せざるをえなくなりました。しかし、座席配置や換気体制の見直しや送風機の追加などの対処をし、収容人数の確保に成功しました。このように、普段はマイペースな志木高生ですが、収穫祭では「成功」という共通の目標に一丸となって全力で取り組みます。志木高生がもっている「熱」を一番体感できるイベントは収穫祭だと断言できます。移りゆく時代の中で、志木高生の本気が見られる収穫祭がいつまでも続くことを願っています。



内田 聖人君
（第78回収穫祭実行委員長）





クラブ活動



志木高の広大なグラウンドと豊かな自然は、若いエネルギーを発散させるに余りあるほどです。この環境を最大限に生かして毎日を精一杯生きることが、強い体と精神力を養ってくれるはずです。二度と戻らない貴重な時だからこそ、最高の環境の中で過ごしてほしいのです。

文化部

- 英語部（ESS・軽音パート）
- 生物部
- 天文部
- 新聞部
- マンドリンクラブ
- 器楽部（吹奏楽）
- 囲碁将棋部
- 美術部
- 電子工学研究会
- 鉄道研究会
- ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

運動部

- 硬式野球部
- 競走部（陸上）
- 卓球部
- 庭球部（硬式テニス）
- 端艇部（ボート）
- ラグビー部
- バレーボール部
- ホッケー部
- サッカー部
- バスケットボール部
- 弓術部
- ゴルフ部
- 剣道部
- スキー部
- ソフトテニス部
- 水泳部
- 軟式野球部
- 空手部

文化部　マンドリン部　小山 新太 君（3 年）

僕は志木高に入って初めてマンドリンという楽器に出会いました。マンドリンとはイタリア発祥の撥弦楽器であり、本校マンドリンクラブではクラシックギターなどとともにアンサンブルを組んで演奏を行っています。

我が部の特長は幅広い年代の交流にあります。日々の練習では熟練のOBの方々にご指導いただいています。また、毎年10月に行われるALL KMCコンサートでは、慶應義塾高校や慶應義塾女子高校などの塾内マンドリンクラブが集い、活発な交流が行われます。こうした縦と横のつながりを感じながら送る部活動は、僕にとって多くの学びを実感する日々です。

3月の定期演奏会では一人一人の音色が輝かせられるよう意識しています。この演奏会では、現役部員の中の少人数で演奏したり、自分たちでプログラムを考えたりと自由に模索しながら実施しています。曲によってはソロパートもあり、非常に緊張しますが、合宿中に仲間と繰り返し練習して作り上げた演奏は僕の大切な思い出の一つです。



これから入学してくる皆さんが大学附属校という自由な環境の中でも、殊更に自由なこの志木高だからこそ送れる各々の青春を奏でられることを願っています。

運動部　ラグビー部　木谷 元 君（3 年）

私たちラグビー部は、志木高史上初となる全国大会「花園」出場を目標に、日々練習に励んできました。過去2年間は県予選ベスト4にとどまり、あと一歩届かない悔しさを味わってきました。しかし昨年度、その壁を乗り越え、ついに花園出場、さらに全国ベスト16という成果を収めることができました。この結果は、顧問の先生方のご指導、OB会や保護者の方々の支え、そして何より仲間と共に積み重ねてきた努力の結晶です。決して平坦な道のりではありませんでしたが、一人ひとりが役割を全うし、チームとして戦い抜いたことでつかみ取ることができました。

本校ラグビー部の特長の一つは、多くの部員が高校から競技を始める点にあります。入部当初は体力面や技術面で他校に劣ることもありますが、日々の練習を通して確実に成長し、自信と誇りを持ってプレーできる選手へと成長します。学年を越えた結びつきの強さも大きな武器であり、互いに支え合い、高め合う関係がチームの力となっています。



花園出場はゴールではなく新たなスタートです。この経験を糧に、私たちはさらに上を目指して挑戦を続けていきます。志木高では自分の目標に本気で向き合うことができます。皆さんもぜひ、仲間と共にかけがえのない時間を過ごしてください。



志木高の歩み



本校体育館の舞台中央の壁面に、慶應義塾の創始者福澤諭吉（1835-1901）の演説姿を写したと伝えられる肖像画が掲げられています。和服の着流しで、悠然と腕組みをして立つ油彩の正面全身像です。その姿に、諭吉の人柄と生涯のすべてが語られていると思います。先生は本を読むことよりも、字を書くことよりも、人に向かって話すことが大切であると考えました。先生は国の役人を尊び、民間の人々を見下すような官尊民卑の気風を嫌い、自らも大臣や役人にならず、民間の学者、教育家として生涯を貫きました。志木高生は、いつもそんな先生に見まもられています。

『学問のすゝめ』十二編
―― 演説の法を勧むるの説

演説をすれば味わいが生まれます。文章では伝わらないことも口で話せば人の心を動かします。どのように自分の考えを人に発表するかは大切です。

学問は読書だけがすべてではありません。活用できない学問は無学と同じです。昔、朱子学を学んだ学生がずっと江戸で勉強して、数年間でノートを数百冊も作りました。もうこれでよしと思ってノートを船で送ったら、船は沈没してしまいました。学生は故郷には帰ったものの、学問は海に流れて身に付いたものは何一つもない、江戸で勉強する前の無学な自分とまったく変わっていなかったという話があります。

今、東京に出て西洋の学問をする者も同じで、テキストを取り上げて田舎に帰したら、「僕の学問は東京に置いてきてしまった」と言い訳したという笑い話もあります。

だから学問の目的は読書だけにはなくて、知識を活用するという精神の働きにあります。観察・探求だけでなく、もちろん、読書も作文も討論も発表も必要で、これらをすべてこなしてはじめて学問を勉強する人というのです。観察・探求・読書は自分から知識を広げる方法、討論は知識を交換する方法、作文・発表は知識を広める方法です。そしてこれらの方法の中で自分一人でできるものもあるけれど、討論と発表とは必ず相手が必要になります。演説会はだから必要なのですよ。（大意）



《慶應義塾一口メモ》

1 「塾生」・「塾員」

慶應義塾では学生・生徒のことを「塾生」、卒業生のことを「塾員」とよぶならわしがあります。また、塾生・塾員と教職員を合わせて「社中」とよび、福澤先生の時代から強い結束を保ってきました。なお慶應義塾には、公式文書等の敬称として塾生・塾員・教職員ともに「君」を用いるならわしもあります。「先生」は創立者たる福澤諭吉ただ一人であるというわけですが、これも義塾の成り立ちと伝統とをよく伝える事例といえましょう。

2 「気品の泉源」・「智徳の模範」

「慶應義塾の目的」に登場する言葉で、塾生・塾員が目指すべき理想像です。このうち「気品」について福澤先生は、それがcharacterであり、「浩然の気」（『孟子』）であり、かつ高尚なものであると説明されています。しかし、これはなにも特別な人しか身につけられないものではありません。むしろ、われわれ一人一人が、日常生活のうえでの行動の規範として身につけることが期待されているものです。

3 「独立自尊」

「独立自尊」とは、むやみに権力に従うのではなく、自ら考え、自分の責任において物事を判断し行動すること、またその際に、自分をおとしめず、同時に他の人々のことも尊重し、自分と同じように大切にすることを意味する言葉で、慶應義塾を支えてきた根本精神です。福澤先生が弟子たちとともに作成された『修身要領』（1901年）には、「心身の独立を全うし、自らその身を尊重して、人たるの品位を辱めざるもの、これを独立自尊の人と言う」とあります。

4 「自我作古」

「われよりいにしえをなす」と訓します。もとは中国の『宋史』にみられる言葉ですが、古い慣習にとらわれず、自らが先導者として新しい分野を開拓することを意味し、1868（慶應4・明治元）年起草の『慶應義塾之記』以来、慶應義塾のあり方と気概とを示す言葉として今日も用いられています。

5 「練習ハ不可能ヲ可能ニス」

戦前から戦後にかけて長く慶應義塾の塾長を務めた小泉信三元塾長（1888-1966）の言葉で、現在でも慶應義塾の体育会各部のモットーとなっています。

参考：『慶應義塾史事典』（2008年）、『慶應義塾豆百科』（1996年）、『福澤諭吉事典』（2010年）



志木高沿革

日本の電力開発に最も大きな功績を残した松永安左ヱ門が、当時理事長として苦境にあった東邦電力の研究所を、自身が生涯の師と仰ぐ福澤諭吉の慶應義塾に寄贈するという英断によって、本校は産声を上げます。慶應義塾の一貫教育校の中にあって、他校にはない独自の伝統が、本校を特徴づけています。

1858(安政５)年	福澤諭吉、蘭学塾を創始
1868(慶應４)年	慶應義塾と命名
1947(昭和22)年度	松永安左ヱ門寄贈の東邦産業研究所敷地・施設、 慶應義塾への受け入れ決定
	慶應義塾獣医畜産専門学校、志木へ移転
	農場鍬入れ
1948(昭和23)年度	慶應義塾農業高等学校設置・開校式
	第１回収穫祭
1957(昭和32)年度	農業高等学校を改組し慶應義塾志木高等学校発足 （※「農芸」を含むカリキュラム）
	第１回志木演説会（奥井復太郎塾長「慶應義塾について」）
	学部推薦入学制度（文・経・法・商）
1958(昭和33)年度	慶應義塾創立100周年
	生徒会発足、第1回総会
1959(昭和34)年度	第１回運動会
1964(昭和39)年度	第１回マラソン大会（多摩湖コース）
1968(昭和43)年度	新校舎（現在の校舎）竣工
1969(昭和44)年度	３年生「自由選択科目」スタート
	福澤先生坐像安置式　福澤先生肖像画掲額
1972(昭和47)年度	制服自由化（夏服。翌年冬服も）
1974(昭和49)年度	旧去来舎竣工
1975(昭和50)年度	１年研修旅行スタート（２年は翌年から）
1976(昭和51)年度	有朋舎（部室棟）竣工
1979(昭和54)年度	「牧童像」除幕式
1984(昭和59)年度	柔剣道場竣工
1985(昭和60)年度	陽光舎（第２部室棟）竣工
1987(昭和62)年度	３年見学旅行スタート
1988(昭和63)年度	慶應志木会（OB会）設立
1991(平成３)年度	語学課外講座（当初19言語）開講
1992(平成４)年度	コンピュータ教室設置
1993(平成５)年度	『欅』（生徒論文・作品集）創刊
1995(平成７)年度	『ことばと文化』（「語学課外講座」論文集）創刊
1996(平成８)年度	慶應志木の森、植樹祭
	「志木の森ツアー」スタート
1998(平成10)年度	開設50周年記念式典
	『志木高五十年』刊行
2001(平成13)年度	メディア棟・新去来舎竣工
2003(平成15)年度	実習農園の復活
2008(平成20)年度	慶應義塾創立150周年
2010(平成22)年度	憩いの広場設置
2023(令和５)年度	開設75周年記念式典
	光彩館竣工

※農芸：農業高校時代の成果を生かし、土に親しみながら実学の精神を養うため、週に2～3時間、全生徒が果樹・園芸、農牧場関係の作業に従事した科目です。1964年に廃止されますが、現在でも収穫祭や有志による実習農場など、農業高校時代のなごりがみられます。

進　路

慶應義塾大学への推薦

本校の卒業生は、学校長の推薦により、慶應義塾大学のいずれかの学部に進学することが認められます。学部推薦のための情報は在学中機会あるごとに提供され、担任との面接などを通して理解を深めながら各自が志望学部を決定していきます。直接大学の先生から話を聞く機会として、学部説明会や学部見学会、模擬講義なども設けられています。推薦する学部の決定に際しては、生徒一人一人の希望を尊重することはいうまでもありませんが、すべての生徒の希望に沿うことはできませんので、在学中の成績を全体的に評価して最終決定を行います。なお、本校は慶應義塾の一貫教育校ですから、他大学を受験する際には慶應義塾大学への推薦を辞退しなければなりません。

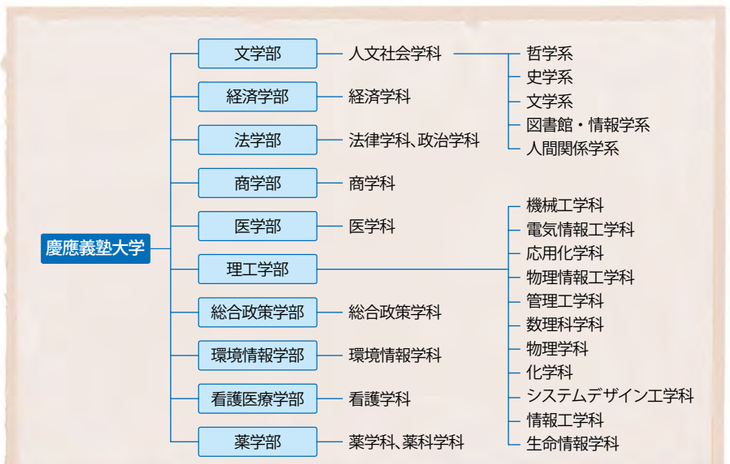


慶應義塾大学の学部・学科

詳しくは慶應義塾大学のウェブサイト（https://www.keio.ac.jp/ja/）をご覧ください。







慶應義塾大学大学院

「学理及びその応用を教授研究し、学術の深奥を究めて文化の発展に寄与すること」を目的とし、社会貢献を明確にうたうのが慶應義塾の大学院です。研究科は14あり、いわゆる「飛び級」による入学を認めている研究科や、ジョイントディグリー制度を導入している研究科もあります。本校の卒業生も数多く進学し、修了後は研究者や高度な専門性を備えた職業人として第一線で活躍しています。意欲さえあれば、道は大きく開かれているのです。

●文学研究科　●経済学研究科　●法学研究科　●社会学研究科　●商学研究科　●医学研究科　●理工学研究科
●政策・メディア研究科　●健康マネジメント研究科　●薬学研究科　●経営管理研究科
●システムデザイン・マネジメント研究科　●メディアデザイン研究科　●法務研究科（法科大学院）

過去の学部推薦・進路状況

	文	経済	法	商	医	理工	総合政策	環境情報	看護医療	薬	その他	卒業者数
2025年度	10	73	74	22	7	60	0	2	0	1	1	250
2024年度	4	80	74	18	7	41	2	1	0	0	1	228
2023年度	10	80	74	18	7	40	1	3	0	1	1	235
2022年度	13	80	74	20	7	33	2	5	0	0	3	237

アクセスマップ



・東武東上線志木駅下車　東口より徒歩7分

池袋・浦和から校門までどちらも30分とかかりません。
最寄りの東武東上線志木駅から徒歩7分と交通至便の場所にあります。

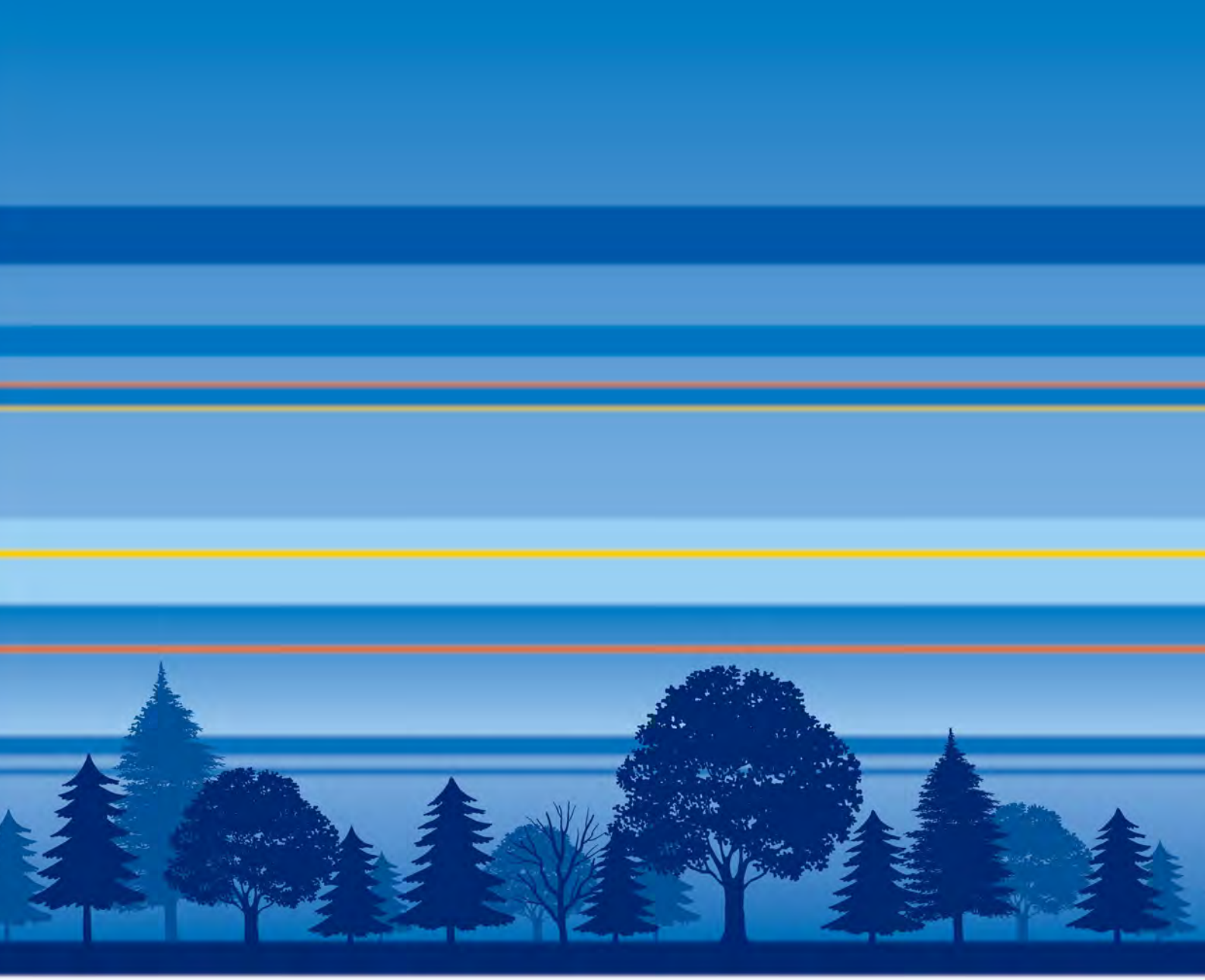
●《参考》本校生徒の居住地域（2026年度実績）

埼玉県中央部	127名
埼玉県東部	48名
埼玉県西部	139名
埼玉県北部	7名
東京都23区	275名
東京都市部	61名
神奈川県	51名
千葉県	45名
栃木県	3名
群馬県	1名
茨城県	4名

志木駅までの所要時間（目安）

※現在、東武東上線・東京メトロ副都心線・東急東横線の相互直通運転が行われています。





慶應義塾志木高等学校

〒353-0004　埼玉県志木市本町4-14-1
TEL 048-471-1361(代表) FAX 048-471-1974
https://www.shiki.keio.ac.jp